

《脱原発と私たち》

— 講演と討論の会 <第26回> —

日時：2019年3月23日（土）14:00-17:00

場所：世田谷区 宮坂区民センター 中会議室（世田谷線 宮坂駅 下車0分）

講演：「避難してから八年、いまを語る」

～ほかでは言わなかった本当の話～

語り手：星 ひかり

東京生まれ、神奈川県育ち。結婚後、夫の転勤により、福島で3人の子どもを育てながら、地域活動18年の歳月が過ぎる。3・11時郡山市にて被災。一週間の避難所生活を経て、東京の妹宅へ娘2人と避難。以後東京で生活再建をする。避難後、日々の思いを詩に書きはじめ、自身の体験や福島の現状を語り始める。学童保育の仕事のかたわら、歌や詩の朗読を通して、命・平和の尊さを語る活動を続けている。

私は3・11後の深い喪失感の中で、自分の言葉を失いました。詩作を通して、また出会った人にその詩や被災体験を語ることで、少しずつ自分を取り戻してることができました。しかし今八年前をふりかえって、当時のことで語ってこなかったことがあります。また震災後、目まぐるしく追われる生活再建の中で、置き去りにしてきたこともあります。4回の引越しと転職、子育て、様々な活動、日々の暮らしの中で、こぼれ落としてきてしまったもの、ふつふつと立ち昇る思いを、自作の詩とともに語りたいと思います。

また2018年の秋に和解した、東電への個人的損害賠償請求での体験、土井敏邦監督 映画『福島は語る』の中で語った思い、先の見えない混沌とした時、どうやって未来を描く力を保ってきたのか？そんな体験についても、お話してきたら・・・と思っています。



討論 「脱原発を考える」

資料代など：500円

主催：「脱原発を考える会」、協力：「チーム世田谷」

世話人1：児玉三枝子：主婦、世田谷区宇奈根在住（連絡先：03-3415-6873）

世話人2：小西怜實：主婦、世田谷区喜多見在住（連絡先：03-3416-3894）

世話人3：宇都宮和代：主婦、世田谷区弦巻在住（連絡先：03-3429-4708）

世話人4：桑折恭一郎：技術士、世田谷区新町在住

避難してから8年、いまを語る ほかでは言わなかった本当の話

星 ひかり (2011年3月から東京へ避難中)

(1) 土井敏邦監督との出会い

・「あなたにとって、ふるさとして、何ですか？」

(2) 2017年、住宅補償打切りから2年経過、今年2019年3月末に完全終了。

・住宅補償は避難者の命綱！ これは人権を揺るがす問題！

憲法25条「すべて国民は、健康で文化的な最低限の生活を営む権利を有する。国は、すべての生活部分面について、社会福祉、社会保障および公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」

(3) ADR ～原子力損害賠償紛争解決センターを介して、東電とやりとりした3年間

・避難先から1回目の転居で、移住？ 住むところを決めることは、個人にあるはず、なのに・・・そもそも避難の権利とは・・・？

(4) 「棄民」とは誰のことか？

・祖母、母のこと 敗戦後、命からがら満州から引き揚げてきて・・・

～なぜか 3・11の時、グラグラ揺れる家の中で・・・そして、避難所で声が聞こえた～

「この家は大丈夫、でもここから・・・この場所から離れなさい！」

「今は平成の時代。大丈夫、これくらいで、あなたは死なないから・・・！」

決断はこの時！ そのあと奇跡が起きた。

・豊島区の天津 渡さんのこと 元日本残留兵の消せない記憶

・山梨県小淵沢「フィリア美術館」で見た、アウシュビッツ生還者コシチェルニアクの絵より

アウシュビッツのおける極限状態の人々の心・・・絶望の中で何を思っていた？

希望とは？ 生きるとは？

ハンナ・アーレントの言った「悪^{ほんようさ}の凡庸さ」は誰の中にもある。普通の人間が、殺意や悪意がなくても残虐な行為に走るときは、思考する力がなくなり、人間の大切な質を放棄した状態に陥っている。

(5) 私は、どうやって自分を保ち続けることができたのか？

・それは熱い人との出会い！ 人類愛！ 確信！ 多様性を認め寄り添ってくれる人々。

3・11がなければ、出会うはずのなかった人々との出会い！

・青年劇場『臨海幻想2012』東京再上演。 初演は30年前、原発事故が舞台上だけでなく、本当に起きてしまった悪夢。そして今も変わらない原発で腐敗した政治、原子ムラの構造に愕然とした！

自作詩「鎮魂歌はまだ早い」を書く。

青年劇場有志の会による「平和へのメッセージ」の会で、自作詩「いまを生きる世界の人々へ」が朗読される。

・柴野 徹夫さんとの出会い 『原発のある風景上/下』によると、40年数年に渡る 原発取材から浮かぶ、原発ジプシーと呼ばれる労働者の実態、原子カムラの裏側で起きていることはひどいものだった。

2017年10月26日、フクイチ廃炉作業現場で労働者が亡くなった。その遺族の思いは・・・？

・「原発は核兵器につながる！」

2014・7・1 集団的自衛権の閣議決定 /2015・9・19 衆議院の強行採決。そして解散総選挙

「園長からの伝言」を書かれた、田中雄二園長との出会い

抑えきれない怒りの中で 自作詩「ヒロシマと フクシマ のあいだに」が生まれた。

・沖縄で出会った人々

辺野古 高江 読谷村/ 彫刻家・金城美さんのアトリエから

・歌や音楽が支えてくれた日々、自分の思いを「星ひかり」として表現すること

女優・たつの素子さん（統一劇場）、作曲家・安達元彦先生、共に表現する仲間との出会い

・福島の詩人・関久雄さんとの出会い ～佐渡保養「へっついの家」のこと

(6) 「もしまた大地震が起きたら・・・？」 原発再稼働していいの？

・2019年3月11日 「福島の女たち 原発いらない 地球のつどい」より

・地域のつながり、地域でのヨウ素剤配布、定期検診、定期的な測定、保養活動・・・

共に生きる視点、支え合うつながり、確かな情報を得ること

いざとなったら頼りになるつながり

揺るぎない確信を持っていること 自分で決断する強さを持つこと

命が大事！ 命をおびやかすものを、しっかり見据えていきましょう。

一度しかない人生、もっと 豊かに自分らしい人生を 誰もが生きることができるよう～

聴いてくださり、ありがとうございました！